

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
日本写真芸術専門学校		昭和57年4月1日		ハービー・山口		〒150-0031 (住所) 東京都渋谷区桜丘町4-16 (電話) 03-3770-5585		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人呉学園		昭和52年10月1日		宋 成烈		〒150-0031 (住所) 東京都渋谷区桜丘町4-16 (電話) 03-3770-5581		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
文化・教養	画像専門課程		写真科3年制		平成21年度	-	平成27年度	
学科の目的		本学科は、写真を様々な角度から学習し、社会に新たな写真表現の可能性を提示できる、国際性に富んだフォトグラファーの育成を目的とする。						
学科の特徴（主な教育内容、取得可能な資格等）		世界を見据えた広い視野と国際性を養いながら、自身の「好き」を起点に専門性と個性を伸ばします。就職・作家活動の両方に対応できる総合的な写真表現力と柔軟な対応力を身につけ、世界に通用する表現者を目指します。 取得可能資格は以下の通り。写真技能検定3級(国家資格)、Photoshop®クリエイター能力認定試験、Illustrator®クリエイター能力認定試験、アドビ認定アソシエイト、画像処理エンジニア検定						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	3,600 単位時間 - 単位	1,560 単位時間 - 単位	600 単位時間 - 単位	1,440 単位時間 - 単位	- 単位時間 - 単位	- 単位時間 - 単位
	生徒総定員		生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)	中退率		
150 人	141 人	58 人		41 %	19 %			
就職等の状況	■卒業者数 (C)		29 人					
	■就職希望者数 (D)		26 人					
	■就職者数 (E)		23 人					
	■地元就職者数 (F)		0 人					
	■就職率 (E/D)		88 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)		0 %					
	■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)		79 %					
	■進学者数		1 人					
	■その他							
	就職活動の継続やフリーターとして収入を得ながら作家活動続ける、帰国する、 など							
(令和6年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等								
(令和6年度卒業生)								
主な企業：千株会社・株式会社ベースボール・マガジン社・株式会社ジョイフル恵利・株式会社群馬プロバスケットボールコミッション・DMM FinTech・パソナアートナウ・株式会社写真弘社・防衛省など、スポーツ分野のカメラマン、展示の企画・運営業、スタジオ、写真館、ギャラリー、出版社のほか一般職（販売・事務）								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体： - 受害年月： - 評価結果を掲載したホームページURL -							
当該学科のホームページURL	https://npi.ac.jp/course/day_photo_fieldwork , https://npi.ac.jp/course/day_photo_research , https://npi.ac.jp/course/day_photo_art							
企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）	(A：単位時間による算定)							
	総授業時数		3,600 単位時間					
企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		- 単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		240 単位時間					
	うち必修授業時数		240 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		- 単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		240 単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		- 単位時間					
	(B：単位数による算定)							
	総単位数		- 単位					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		- 単位					
	うち企業等と連携した演習の単位数		- 単位					
うち必修単位数		- 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		- 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		- 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		- 単位						
教員の属性（専任教員について記入）	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号) 10 人					
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号) 4 人					
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号) 0 人					
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号) 2 人					
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号) 2 人					
	計		18 人					
	上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数		17 人					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（１）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針
企業やビジネスパーソンとの連携を強化し、その内容を授業等に反映、活用する。スピード感を持って、時代のニーズに応えられるカリキュラムを改善・整備し、即戦力となるクリエイターの育成を目指す。

（２）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
学校関係者委員会の答申と各科カリキュラム編成委員会の要望等を踏まえ、教務課長が教育課程編成委員長となり、別紙添付資料(位置づけに係る諸規定)の①～⑤に従って実施する。

（３）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年3月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
ハービー・山口	日本写真芸術専門学校 【校長】	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	－
奥 初起	日本写真芸術専門学校 【教務課課長】	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	－
倉持 正実	公益社団法人日本写真家協会	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	①
安澤 剛直	一般社団法人日本ウェディングフォトグラファーズ協会代表理事	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	①
豊田 直之	有限会社ティエムオフィス 代表	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	③
安部 忍	株式会社ブルージェイ山ノ手写真製作所 専務取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（１企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（４）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回 （9～10月、2～3月）
（開催日時（実績））
第1回 令和6年10月24日 18：00～19：30
第2回 令和7年 2月25日 15：00～16：30

（５）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
1. 写真制作のプロセス教育：「撮った後」を育てる視点
前期はポスター制作や写真集、後期はスライドショーや動画制作など、撮影後の表現手段に重きを置いたカリキュラムが進行。
「人に見せる」意識、自主性、目的意識の醸成を図る。
楽しんで作る姿勢を尊重し、成果発表の機会を通じて発表者としての視点を育てている。
写真を「語る」力の育成や、時代・思想・テーマの変化に柔軟に応じる力の重要性が強調された。
2. ドローンなど先端技術の活用についての可能性と課題
撮影実習でのドローン使用が一部不備（海岸使用不能）あったが、学生の関心は高く、ポートレート等への応用も進む。
国家資格化により費用や制度面のハードルが上がっており、以前の斡旋制度が機能しなくなった点が課題。
授業成果としてドローン映像の活用も検討中で、編集や公開（SNS等）によるモチベーション喚起も期待。
将来的にはインディーズアーティストのPV制作など、実践的な連携企画の可能性も議論された。

3. クライアントワークと現場力の育成

プロの現場では撮影技術以上に、現場マネジメント能力・指示力・提案力が重視される。

クライアント対応や被写体への気配り、空気づくりなど、「安心感を与える存在」としてのカメラマン像が共有された。

学外撮影や学園祭イベントでの実習参加も有効で、学生の自信形成に寄与。

4. 写真展や外部イベントとの連携、学生のメンタルケアと参加支援

海外（T3など）との交流や、交換留学生の粹確保など国際連携も模索中。

写真展訪問の促進策として、教員による解説付き見学やジャンル越境の刺激を与える企画を実行中。

留学生を含め、繊細でセンシティブな学生が多く、通院やパニック障害等の理由で出席が困難なケースも。

長期欠席を防ぐため、「校外授業」「撮影実習」などをきっかけとした参加促進を実施。こういった校外での実習が学生の表現力・自信・出席意欲につながる例が多く報告。

1年次からの刺激ある体験提供が、継続的な成長や定着の鍵となる。

併行してカウンセリング体制の強化を整備中。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（１）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

可能な限り、学生の卒業後の進路となるデザイン業界で、実際に彼らが仕事として取り組む可能性が高い業務内容を授業内で経験できること。また、その業務において事前に身に付けておくべき技術や知識を得ることができることを重視している。

（２）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

連携先の企業が実際に請け負う仕事を題材とした授業及び制作課題を設定することで、学生がデザイン業界の実際の仕事を授業を通じて学生時代に経験できること。また企業が仕事の成果物として社会に送りだした制作物と、学生が制作した作品を比較検討し、より具体的な問題点の把握や長所の発見等に繋げる機会を創出し、学生の評価に反映している。

（３）具体的な連携の例※科目数については代表的な５科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
画像処理Ⅲ	教育課程編成委員会の参画、および授業運営	卒業後すぐに現場で活かせる技術を身につけるため、Photoshopに加え、Illustrator、InDesign、PowerPoint、動画やドローン撮影などを学び、課題制作を通して総合的にプレゼン技術を習得する。	有限会社ティエムオフィス

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（１）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

日本写真芸術専門学校における職業実践専門課程に伴う研修等に係る諸規程に基づき、企業と連携し、デザイン専門学校の教員として必要な専門技術及び実務に関する知識等を身に付ける。

（２）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	LMS(Learning Management System)Schoo Swingのキャリア進路指導への利活用について	連携企業等：	株式会社Schoo
期間：	2025年2月下旬	対象：	全教職員
内容	自律的なキャリア形成を学生に促すための補助教材システムとして、LMSを活用する事例等の講習		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	写真基礎、デザイン基礎講習	連携企業等：	公益社団法人日本写真家協会他
期間：	2024年5月下旬	対象：	全職員
内容	基礎を学び、様々な視野でクリエイティブの幅を広げることを目的とし、教育に活用		

研修名：	キャンパスにおけるハラスメント防止対策研修	連携企業等：	公益財団法人２１世紀職業財団
期間：	2025年2月中旬	対象：	全教職員
内容	アカデミックハラスメントを中心とした昨今の事例と、起こさないための対策講座		

(3) 研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名： 生成AIツールの最新動向	連携企業等： 検討中
期間： 2026年2月ごろ	対象： 全教職員
内容： 発展スピードが加速するAI技術の現在と、クリエイティブ業界での最新事例を学び、教育に活かす。	
研修名： 写真基礎、デザイン基礎講習	連携企業等： 公益社団法人日本写真家協会他
期間： 2025年5月ごろ	対象： 全職員
内容： デザインの基本的なツールの習得と、スキル向上、教育の現場で利活用する	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名： コミュニケーション能力開発研修	連携企業等： 株式会社インソース
期間： 2025年中	対象： 全教職員
内容： Z世代以降に求められるコミュニケーション能力と、教員が世代間ギャップを超えるためのコミュニケーション能力の習得	
研修名： キャンパスにおけるハラスメント防止対策研修	連携企業等： 公益財団法人21世紀職業財団
期間： 2025年中	対象： 全教職員
内容： 昨年度の基礎研修をもとに、応用的なハラスメントの防止対策講座を実施	
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針	
学校関係者評価委員会は、自己評価結果、カリキュラム、シラバス等についての評価を、校長、事務局長、教務課長、総務課長、学生課長に伝え、改善等の助言をする。講師会議、学年会議、カリキュラム会議、担任会議、科目担当者会議等は、学校関係者評価委員会の評価を踏まえて、カリキュラム、シラバス等について具体的な改善案を作成する。	
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・教育目標は示されているか／学校の特色は示されているか／学校の将来構想は示されているか／学校の理念・目的・特色などが学生・保護者に周知されているか／各科の教育目標、人材育成は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2) 学校運営	運営方針は定められているか／運営方針に沿った事業計画が策定されているか／運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか／人事や給与との処遇に関する制度は整備されているか／意思決定システムは確立されているか／業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか／教育活動に関する情報公開が適切になされているか／情報システム等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか／カリキュラムは業界の人材ニーズに対応しているか／学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか／キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか／定期的カリキュラムの見直しはなされているか／関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか／成績評価の基準は明確になっているか／職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか／授業評価は実施されているか／資格取得等に関する指導体制やカリキュラムはできているか／人材育成目標の達成に向けて授業を行う講師を確保しているか／関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか／関連分野における先端的な知識・技能等を取得するための研修や教員の指導力育成や向上のための取組が行われているか／職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	就職率を向上させるための施策は図られているか／資格取得を向上させるための施策は図られているか／退学者を減らすための施策は図られているか／卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか／卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5) 学生支援	就職に関する支援体制は整っているか／学生相談などの支援体制はどうか／学生への奨学金等の経済的支援はどうか／学生の健康管理はどうか／課外活動に関する支援体制は整備されているか／学生寮等の支援体制は整備されているか／保護者と適切に連携しているか／卒業生への支援体制はあるか／社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか／高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(6) 教育環境	施設・設備はカリキュラムに対応出来ているか／学内外の実習設備、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか／防災体制は整っているか
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動は適正か／学生募集に教育成果は反映されているか／入学選考の時期・基準・方法は適正か／納付金は妥当なものとなっているか
(8) 財務	中長期的に財務基盤はどうか／予算・収支計画は有効かつ妥当か／会計監査は適正に行われているか／財務情報公開の体制整備はできているか
(9) 法令等の遵守	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか／個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか／自己評価の実施と問題点について改善に努めているか／自己評価結果を公表しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	教育資源や設備を活用した社会貢献はなされているか／学生のボランティア活動に対する支援はどうか／地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか／留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか／留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか／学習成果が国内外で評価される取組を行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

■ 業界の人材ニーズに対応した教育体制

本学では、業界の人材ニーズに対応するため、関連分野の企業や業界団体と連携し、寄せられた意見をカリキュラムに反映している。たとえば、令和6年度の関係者評価委員会では、静止画と連動した短尺映像の活用が現場で定着しつつある状況や、広告分野におけるAIによる動画生成の活用事例が取り上げられた。こうした動向を受けて、本学ではすでにカリキュラム対応を進めており、正式な学則変更を行ったうえで、段階的にスキルを高める仕組みを整備している。現場で求められる高品質な制作物に対応する力を育むため、基礎から応用まで多層的な学びを提供する体制を構築しており、今後も業界ニーズと整合した柔軟な教育活動を継続していく。

■ 学生支援体制の充実に向けて

本学では、就職支援、経済的支援、健康管理など、学生生活全般に関わる支援を行っている。しかし、近年は家庭環境や心理的背景に起因する深刻な悩みを抱える学生も少なくなく、進路や学業の継続に影響を及ぼすケースも見られる。こうした状況を踏まえ、学内にカウンセラーによる専門的な支援体制を整備し、学生一人ひとりに寄り添った対応ができるよう取り組んでいる。今後も、学生が安心して学び続けられる環境づくりを推進していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
川村 順一	文教学院大学 経営学部	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	学術機関
大貫 久美子	株式会社らかんスタジオ	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	企業委員
犬養 岬太	株式会社光陽社	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	地域代表
中澤 久和	校友会 会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日（1年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他 ())

URL : <https://npi.ac.jp/pdf/evaluation/>

公表時期 : 令和7年6月30日

授業科目等の概要

(画像専門課程 写真科3年制フォトフィールドワーク専攻)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			写 真 表 現 演 習 Ⅰ	カメラを使い感性を映像化する基礎を学ぶ授業。撮影の目的や意図を明確にし、多様な写真表現の技法を実習で体得する。たくさん撮り、たくさん観て、表現力を磨いていく。	1 前 後	120	6		○		○	○	○		
2	○			写 真 表 現 演 習 Ⅱ	年間5つの課題に取り組みながら、自らのクリエイティビティを高める作品制作を行う授業。表現方法はディスカッションを通じて決め、実習で多様な技法を学び、技術と知識を活かしてポートフォリオを制作する。	1 前 後	120	6		○		○	○	○		
3	○			写真撮影基礎演習／ファインプリントⅠ	講義と実技を通じて撮影からデジタルプリントまでを段階的に学び、技術と知識を習得する。最終的に表現したい写真を自力で撮れることを目指す。	1 前 後	120	6		○		○	○		○	
4	○			ファインプリントⅡ	この授業では、作者自身が薬品を調合して印画紙を作る古典技法を通じて、作品に合った自由なプリント表現を身につけることを目指す。	2 前 後	120	6		○		○	○		○	
5	○			画像処理Ⅰ	Photoshopを使い、RAW現像・レタッチ・プリントの基本を学ぶ。自らの撮影データを仕上げる過程で、画像処理の基礎知識と技術を身につける。	1 前 後	120	6		○		○			○	
6	○			画像処理Ⅱ	デジタル写真のレタッチ技術を幅広く学び、目的に応じた最適な手法を選べる力を養う。表現の意図を他者に伝えるためのイメージづくりを実践する。	2 前 後	120	6		○		○		○		
7	○			画像処理Ⅲ	卒業後すぐに現場で活かせる技術を身につけるため、Photoshopに加え、Illustrator、InDesign、PowerPoint、動画やドローン撮影などを学び、課題制作を通して総合的にプレゼン技術を習得する。	3 後	60	3		○		○		○		○
8	○			スタジオ演習	光と影の特性を理解しコントロールすることで、思い通りの写真表現を目指す。スタジオ内で光源の大きさや方向による写り方の変化を学ぶ。	1 前 後	120	6		○		○		○		
9	○			現代写真論	写真を「撮る」ために、「見る」「撮られる」視点を養う。現代写真の多様な表現を知り、資料映像の鑑賞やテキストを通じて理解を深める。	1 前 後	120	6	○			○		○		
10	○			フォトプレゼンテーション演習Ⅰ	写真展示の基礎を学び、編集や額装、パネル張りなどを実習で体得する。多くの展示会を見学し、印刷や展示方法の違いによる印象の変化を理解し、効果的なプレゼンテーション力を身につけることを目指す。	1 前 後	120	6		○		○	○		○	
11	○			基礎ゼミナールA	このゼミでは、海外フィールドワークに向けて撮影テーマの発見や構成力を養い、最終的に30枚以上の作品としてまとめる力を身につける。	2 前 後	120	6		○		○		○		
12	○			基礎ゼミナールB	アジア学院での取材を通じて異文化理解と表現力を高める授業。写真と文章でのルポ制作を行い、取材力・構成力・編集力を身につける。	2 前 後	120	6		○		○	○	○		

13	○		ゼミナール	前期のフィールドワークで撮影した写真を見直し、テーマや表現の再確認を行いながら、自分の意図を伝える作品として40～50枚に構成・編集する授業。	3 前 後	120	6		○		○		○					
14	○		作品制作演習 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	学校で学んだ技術や表現力をもとに、作品制作・ポートフォリオ制作を行う。成果物の制作を通じ、クオリティを上げるために必要なことや、他者へプレゼンテーションを行うスキルを身に着ける。	123 前 後	360	18		○		○		○					
15	○		フィールド ワークプラン ニング	この授業では、3年次の海外フィールドワークに向けて撮影企画と行動計画を立て、想定作品を制作する。前期はテーマ立案や企画書作成、後期は行動計画や社会貢献活動の準備を行う。	2 前 後	120	6	○			○		○					
16	○		海外フィールド ワーク	約半年にわたりアジア約10か国で調査・取材・撮影を行う長期取材型ゼミ。自ら立案した企画と行動計画に基づいて現地で実践し、国際性と問題解決能力を高めることを目的とする。	3 前	300	15		○				○	○				
17	○		海外フィールド ワークス クーリング	これまで撮影したデータをもとにプレゼンを構成し、講評を受けながら取材を振り返る。今後の方向性を定め、残りの取材計画を再検討・再プランニングする。	3 前	120	6		○			○	○	○				
18	○		プレゼンテー ション演習	学生が主体となって現地団体と連携し、企画立案から交渉・実行までを行い、写真を通じた社会貢献や現地との交流を実践的に学ぶ授業。	3 前	60	3		○			○	○	○				
19	○		文章表現演習 Ⅱ	自身の写真作品についての意図や内容を的確に言語化し伝える力を養う授業。文法や構成を学び、読み手に伝わる文章を書く力を高めながら、写真と言葉の関係も考察していく。	3 後	60	3		○			○					○	
20	○		エディトリアル ワーク	印刷表現を通して写真を他者に伝える力を養い、ビジュアルデザインの基礎を学ぶ。IllustratorやInDesignの操作を習得し、書体・色彩・編集の知識を活かして自由な自己表現を課題制作にて取り組む。	3 後	60	3		○			○					○	
21	○		ディベート演 習Ⅰ・Ⅱ	この授業では、自身の体験や考えを他者に伝えるための知識や技術を学び、作品説明の力を養う。講義と実習を通して社会課題への理解と議論力も培う。	2 後 3 後	120	6	○				○					○	
22	○		異文化交流演 習（留学生）	日本の生活習慣や文化、ビジネスマナーを学びつつ、写真家との対話や発表を通じて異文化理解と協調性を深めることを目指す。	1 前 後	120	6		○			○					○	
23	○		フォローアップ 講座	卒業制作展や就職・デビューに向けた準備を行いながら、展示方法や作品の見せ方、仕事現場の理解を深め、将来を考える力を養う。	3 後	60	3		○			○		○			○	
24	○		スタジオライ ティング	スタジオ機材の使い方やライティング技術を実習で学び、プロとして必要な撮影スキルを習得することを目的とする実技中心の授業。	2 前 後	120	6		○			○					○	
25	○		写真創作演習	複数の手法を体験的に学び、表現の引き出しを増やしつつ、自身の撮影や鑑賞者への意味を考察する力を養うことを目的とする。	2 前 後	120	6		○			○					○	
26	○		英会話	写真をきっかけに英語を声に出して使い、英語を楽しみと感じることを目的とする授業。中学英語レベルから地道に学ぶ。	1 or 2 前後	120	6	○				○		○				
27	○		メディア論	この授業では、メディアの本質や社会への影響を学ぶ。新聞やSNSなどを通じて、ファッションや政治などを分析し、メディア視点での観察力と表現力を養う。	1 or 2 前後	120	6	○				○					○	

28	○		社会学	日常に潜む「社会的なもの」を理解する力を養う授業。前半は社会学の理論を学び、後半はフィールドワークや制作を通して多様な価値観や生き方を内側から考察する。	1 or 2 前後	120	6	○			○				○	
29	○		フィールドワーク	都市の川や異国で暮らす人々をテーマに、写真と文章で構成するフォトルポルタージュの基礎を学び、3年次のアジア取材に備えて制作力と取材力を身につける授業。	1 前後	120	6		○		○	○	○			
30		○	フォトクリエイティブ演習Ⅰ	写真制作を通じてクリエイティビティを高め、年間4課題に取り組みポートフォリオを制作する。表現方法は議論を重ねながら決定し、実習で技術も磨く。	1 or 2 前後	120	6		○		○				○	
31		○	フォトアート演習	答えをすぐ得られる時代だからこそ、「考える力」を育てることが重要。テーマを持ち、継続的に思考を深める力を写真と共に養う授業。	1 or 2 前後	120	6		○		○				○	
32		○	写真創作演習Ⅱ	この授業では「なぜ写真を学ぶのか」を繰り返し問い直し、自分や他者の意見を交わしながら、写真への姿勢と向き合い方を学ぶことを目的とする。完成度より姿勢を重視する。	1 or 2 前後	120	6		○		○					○
33		○	Web表現演習	Webの仕組みとHTML・CSSの基本を学び、自分だけのWebサイトを制作・公開・運用する力を身につける授業。後期は資格試験相当の練習問題にも挑戦する。	1 or 2 前後	120	6		○		○					○
34		○	ビジュアルデザイン	印刷表現を通じてビジュアルデザインの基礎を学ぶ授業。前期はIllustratorとInDesignの操作や書体・色彩・編集の考え方を学び、後期は自由な表現と意見交換を行う。課題制作には授業外の撮影も必要。	1 or 2 前後	120	6		○		○					○
35		○	マガジンメイキング	紙媒体の雑誌制作を通して、写真と印刷物の関係や編集の基礎を学ぶ。前期は個人制作、後期はグループで雑誌を企画・完成させる。	1 or 2 前後	120	6		○		○					○
36		○	文章表現演習Ⅰ	この授業では、写真と言葉の関係を考察し、言葉が写真の伝達力を高めることを学ぶ。テーマごとの演習を通じ、自分の視点から考え、自分の言葉で何を伝えるかを重視する。	1 or 2 前後	120	6		○		○					○
37		○	風景写真演習	自然や環境を相手に撮影するジャンルでは、状況に応じた判断力が必要となる。天候や光を読み、構図や遠近感を工夫して独自の視点を表現する力を養う。機材メーカーとの交流も行う。	1 or 2 前後	120	6		○		○	○				○
38		○	ムービー制作演習	写真家にも動画感覚が求められる時代に、スチルとムービーの違いを理解し、3種の異なる動画コンテンツを制作することで映像表現の基礎を学ぶ。	1 or 2 前後	120	6		○		○					○
39		○	デジタル表現演習	デジタルとアナログを往復しながら、撮影・編集・発表まで一人で完結できる力を養う。ZINE制作やSNS発信を通して表現力と実践力を高める。	1 or 2 前後	120	6		○		○					○
40		○	ダークルーム	モノクロフィルムを用いて撮影・現像・プリントの技術を学び、暗室実習を通じて写真表現の基礎と伝え方を身につける授業。課題制作も行う。	1 or 2 前後	120	6		○		○					○
41		○	ルポルタージュ演習	ルポルタージュ制作を通して取材・撮影・文章表現の基礎を学ぶ。関心や問題意識の発見、企画、現場取材、編集、発表までを実践し、メディア掲載も目指す。	1 or 2 前後	120	6		○		○	○				○
42		○	写真史	写真の歴史を通じて、人々の感覚や表現の変化を学び、自分の写真表現に活かすことを目指す。暗記ではなく、好きな写真を見つけ語れる力を育てる授業。	1 or 2 前後	120	6	○			○					○

43			○	写真科学	写真の理論と技術を学ぶ講義と実習を通して、光や感光体など画像形成の原理や機材の基礎を理解し、テストチャートを用いた撮影技術と画像品質の向上を目指す。	1 or 2 前後	120	6	○				○			○	
44			○	編集出版論	写真集を含む印刷物を通じて、写真の伝える力や編集の考え方を学ぶ。後期には実習としてZINE制作や作品編集を行い、自作に活かす。	1 or 2 前後	120	6	○				○			○	
45			○	ドキュメンタリー写真論	写真家に必要な表現力を養うため、1950年代以降のドキュメンタリー写真を中心に写真集を年代・地域・テーマ別に学び、感想文で理解を深める。	1 or 2 前後	120	6	○				○			○	
46			○	美術造形論	現代芸術や写真表現を鑑賞・分析し、自身の制作に結びつけて考える力を育む。体験や文章表現を通じて表現の幅を広げる。	1 or 2 前後	120	6	○				○			○	
47	○			特 別 ワ ー ク シ ョ ッ プ	時代を象徴する国内外の写真家、業界で注目されているプロカメラマン、新進気鋭のフォトグラファーなどを招き、講演や出席者の作品講評、ワークショップなどを通じ、学生自身の創作意欲を高めます。	12 前後	120	6	○			○	○			○	
48	○			スターティングワークショップ	写真の世界を「知る」「体験する」ためワークショップ。色々な写真から自分自身の将来の方向性を考えます。	1 前	60	3			○	○	○	○	○		
49	○			2 年 次 国 内 フ ィ ー ル ド ワ ー ク	国内合宿を通じて取材力や主体性、コミュニケーション力を養い、異文化理解を深めることを目的とする。	2 前	60	3			○	○			○	○	
50	○			2 年 次 海 外 フ ィ ー ル ド ワ ー ク	マレーシアにおいて取材撮影や定時連絡等、3年次に必要なことを実践で身につけることが目的。現地では、フィールドワークプランニングの授業内で立案した撮影企画・行動計画に基づいて行動する。	2 前	60	3			○	○			○	○	
51	○			卒業作品集	作品のセレクトからレイアウトまで、実際の編集作業を体験しながら作成し、1冊の作品集としてまとめる。	2 後	60	3			○	○	○			○	
52	○			卒業作品展	在学中に制作した作品制作の成果を学外において発表する。公の場において作品を公開し、展示方法、設営などの経験を通じて作品のプレゼンテーションについての見識を深める。	2 後	60	3			○	○			○	○	
53	○			進級・就職ガイダンス	卒業後を見据えて1年次から実施する。業界の将来性や動向を含めて就職環境を学び、目標とする企業の内定を目指す。	12 前後	120	6	○			○	○			○	
54	○			1 年 次 春 期 合 宿	屋外撮影実習などを通して、基本的な撮影技術の確認と、コミュニケーション能力の向上を目的とした合宿。	1 前	60	3			○	○			○	○	
55	○			NPIポートフォリオコンペティション	ポートフォリオの自主制作からを通してポートフォリオの構成や表現方法を学び、客観的な評価を受けることで自分の作品に対する理解力を深めます。最終的にコンペティションとなります。	12 後	120	6			○	○	○			○	
合計						科目	6,360 単位（単位時間）										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 本校所定の課程を試験等による評価の上、修了したと認める者には、卒業証書を授与する		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必修授業		1 学期の授業期間	20 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(画像専門課程 写真科3年制総合写真研究専攻)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			写 真 表 現 演 習 Ⅰ	カメラを使い感性を映像化する基礎を学ぶ授業。撮影の目的や意図を明確にし、多様な写真表現の技法を実習で体得する。たくさん撮り、たくさん観て、表現力を磨いていく。	1 前後	120	6		○		○	○	○		
2	○			写 真 表 現 演 習 Ⅱ	年間5つの課題に取り組みながら、自らのクリエイティビティを高める作品制作を行う授業。表現方法はディスカッションを通じて決め、実習で多様な技法を学び、技術と知識を活かしてポートフォリオを制作する。	1 前後	120	6		○		○	○	○		
3	○			写真撮影基礎演習／ファインプリントⅠ	講義と実技を通じて撮影からデジタルプリントまでを段階的に学び、技術と知識を習得する。最終的に表現したい写真を自力で撮れることを目指す。	1 前後	120	6		○		○	○		○	
4	○			画像処理Ⅰ	Photoshopを使い、RAW現像・レタッチ・プリントの基本を学ぶ。自らの撮影データを仕上げる過程で、画像処理の基礎知識と技術を身につける。	1 前後	120	6		○		○			○	
5	○			画像処理Ⅱ	デジタル写真のレタッチ技術を幅広く学び、目的に応じた最適な手法を選べる力を養う。表現の意図を他者に伝えるためのイメージづくりを実践する。	2 前後	120	6		○		○		○		○
6	○			画像処理Ⅲ	卒業後すぐに現場で活かせる技術を身につけるため、Photoshopに加え、Illustrator、InDesign、PowerPoint、動画やドローン撮影などを学び、課題制作を通して総合的にプレゼン技術を習得する。	3 前後	120	6		○		○		○		
7	○			スタジオ演習	光と影の特性を理解しコントロールすることで、思い通りの写真表現を目指す。スタジオ内で光源の大きさや方向による写り方の変化を学ぶ。	1 前後	120	6		○		○		○		
8	○			ポ ー ト レ ー ト 演 習	スタジオ撮影の基礎として、機材の扱いやライティング技術、人物とのコミュニケーションの重要性を学び、ポートレート表現を深める。	1 前後	120	6		○		○			○	
9	○			現代写真論	写真を「撮る」ために、「見る」「撮られる」視点を養う。現代写真の多様な表現を知り、資料映像の鑑賞やテキストを通じて理解を深める。	1 前後	120	6	○			○		○		
10	○			フ ォ ト プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン 演 習Ⅰ	写真展示の基礎を学び、編集や額装、パネル張りなどを実習で体得する。多くの展示会を見学し、印刷や展示方法の違いによる印象の変化を理解し、効果的なプレゼンテーション力を身につけることを目指す。	1 前後	120	6		○		○	○		○	
11	○			フ ォ ト コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 演 習	写真を通じた社会との関わり方を学ぶ授業で、前期はSNS活用を前提としたコミュニケーション手法を、後期は写真による小冊子制作を行い、表現が新たな人とのつながりを生む可能性を探る。リサーチと実践を通じて写真の社会的活用を考える。	2 前後	120	6		○		○	○		○	
12	○			総 合 写 真 研 究 ゼミⅠ	短期・中期・長期の課題制作を通して、作品制作のプロセスやプレゼン方法を探求し、自身の表現力や世界観を深めることを目的とする。	2 前後	120	6		○		○			○	

13	○			総合写真研究 ゼミⅡ	3年間の学びの集大成として、自主的に作品を企画・制作・発表し、明確な制作動機に基づいた表現力と言語化能力を高めることを目指す。	3 前後	120	6		○		○		○				
14	○			ゼミナール	9分野それぞれのプロフォトグラファーの指導を通じ、自身が選択したジャンルの撮影技術・表現力・応用力を磨く。最終的には卒業作品を制作する。	2, 3 前後	240	12		○		○					○	
15	○			作品制作演習 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	学校で学んだ技術や表現力をもとに、作品制作・ポートフォリオ制作を行う。成果物の制作を通じ、クオリティを上げるために必要なことや、他者へプレゼンテーションを行うスキルを身に着ける。	123 前後	360	18		○		○			○			
16	○			映像表現論	歴史的な作品の鑑賞を通して表現の多様性を学び、作者の意図を読み取って自分の言葉で語る力を養い、作品制作に活かすことを目指す。	3 前後	120	6	○			○	○	○				
17	○			写真美術史	写真が現代美術における重要な表現手段となった経緯を学ぶ講義。カメラ・オブスキュラから始まり、写真と美術の関係性を時代ごとに辿りながら理解を深める。展覧会にも言及し、学びを実際の鑑賞体験に結びつける。	2 前後	120	6	○			○	○				○	
18	○			デザイン演習	社会やクライアントの課題発見から解決までをデザイン思考に基づいて実践し、分析力やアイデア発想力、チームでの表現力とコミュニケーション力を養う。後期は混合チームで課題に取り組み、成果を形にする力を身につける。	2 前後	120	6		○		○	○				○	
19	○			スタジオライ ティング	スタジオ機材の使い方やライティング技術を実習で学び、プロとして必要な撮影スキルを習得することを目的とする実技中心の授業。	2 前後	120	6		○		○					○	
20	○			テクニカルラ イティング	実践的なスタジオワークや商品撮影のライティングを学び、分野を問わず活かせるフツ撮り技術を習得する。前期は課題に沿って技術を磨き、後期は卒展や就職を見据えた自身のテーマ作品の完成させる。	3 前後	120	6		○		○					○	
21	○			メディア表現 論	近現代美術の多様な表現と社会背景を理解する力を養うため、重要テキストと作品を分析し、美術と視覚文化の読解力を高める講義を行う。	3 前後	120	6	○			○	○				○	
22	○			映像制作演習	動画が身近になった現代において、写真家にも映像制作の素養が求められている。本授業では、これまでの写真技術を活かし、広告主からの依頼を想定したWeb用PR動画を中心に、理論と実践の両面から映像制作を学ぶ。	3 前後	120	6		○		○					○	
23	○			異文化交流演 習（留学生）	日本の生活習慣や文化、ビジネスマナーを学びつつ、写真家との対話や発表を通じて異文化理解と協調性を深めることを目指す。	1 前後	120	6		○		○					○	
24	○			フォローアッ プ講座	卒業制作展や就職・デビューに向けた準備を行いながら、展示方法や作品の見せ方、仕事現場の理解を深め、将来を考える力を養う。	3 前後	120	6		○		○			○			○
25			○	フォトクリ エイティブ演習 Ⅰ	写真制作を通じてクリエイティビティを高め、年間4課題に取り組みポートフォリオを制作する。表現方法は議論を重ねながら決定し、実習で技術も磨く。	1 or 2 前後	120	6		○		○			○			
26			○	フォトアート 演習	答えをすぐ得られる時代だからこそ、「考える力」を育てることが重要。テーマを持ち、継続的に思考を深める力を写真と共に養う授業。	1 or 2 前後	120	6		○		○			○			
27			○	写真創作演習 Ⅱ	この授業では「なぜ写真を学ぶのか」を繰り返し問い直し、自分や他者の意見を交わしながら、写真への姿勢と向き合い方を学ぶことを目的とする。完成度より姿勢を重視する。	1 or 2 前後	120	6		○		○					○	

28			○	Web表現演習	Webの仕組みとHTML・CSSの基本を学び、自分だけのWebサイトを制作・公開・運用する力を身につける授業。後期は資格試験相当の練習問題にも挑戦する。	1 or 2 前後	120	6		○		○				○	
29			○	ビジュアルデザイン	印刷表現を通じてビジュアルデザインの基礎を学ぶ授業。前期はIllustratorとInDesignの操作や書体・色彩・編集の考え方を学び、後期は自由な表現と意見交換を行う。課題制作には授業外の撮影も必要。	1 or 2 前後	120	6		○		○				○	
30			○	マガジンメイキング	紙媒体の雑誌制作を通して、写真と印刷物の関係や編集の基礎を学ぶ。前期は個人制作、後期はグループで雑誌を企画・完成させる。	1 or 2 前後	120	6		○		○				○	
31			○	文章表現演習I	この授業では、写真と言葉の関係を考察し、言葉が写真の伝達力を高めることを学ぶ。テーマごとの演習を通じて、自分の視点から考え、自分の言葉で何を伝えるかを重視する。	1 or 2 前後	120	6		○		○				○	
32			○	風景写真演習	自然や環境を相手に撮影するジャンルでは、状況に応じた判断力が必要となる。天候や光を読み、構図や遠近感を工夫して独自の視点を表現する力を養う。機材メーカーとの交流も行う。	1 or 2 前後	120	6		○		○	○			○	
33			○	ムービー制作演習	写真家にも動画感覚が求められる時代に、スチルとムービーの違いを理解し、3種の異なる動画コンテンツを制作することで映像表現の基礎を学ぶ。	1 or 2 前後	120	6		○		○				○	
34			○	デジタル表現演習	デジタルとアナログを往復しながら、撮影・編集・発表まで一人で完結できる力を養う。ZINE制作やSNS発信を通して表現力と実践力を高める。	1 or 2 前後	120	6		○		○				○	
35			○	ダークルーム	モノクロフィルムを用いて撮影・現像・プリントの技術を学び、暗室実習を通じて写真表現の基礎と伝え方を身につける授業。課題制作も行う。	1 or 2 前後	120	6		○		○				○	
36			○	ルポルタージュ演習	ルポルタージュ制作を通して取材・撮影・文章表現の基礎を学ぶ。関心や問題意識の発見、企画、現場取材、編集、発表までを実践し、メディア掲載も目指す。	1 or 2 前後	120	6		○		○	○			○	
37			○	写真史	写真の歴史を通じて、人々の感覚や表現の変化を学び、自分の写真表現に活かすことを目指す。暗記ではなく、好きな写真を見つけ語れる力を育てる授業。	1 or 2 前後	120	6	○			○				○	
38			○	写真科学	写真の理論と技術を学ぶ講義と実習を通して、光や感光体など画像形成の原理や機材の基礎を理解し、テストチャートを用いた撮影技術と画像品質の向上を目指す。	1 or 2 前後	120	6	○			○				○	
39			○	編集出版論	写真集を含む印刷物を通じて、写真の伝える力や編集の考え方を学ぶ。後期には実習としてZINE制作や作品編集を行い、自作に活かす。	1 or 2 前後	120	6	○			○				○	
40			○	ドキュメンタリー写真論	写真家に必要な表現力を養うため、1950年代以降のドキュメンタリー写真を中心に写真集を年代・地域・テーマ別に学び、感想文で理解を深める。	1 or 2 前後	120	6	○			○			○		
41			○	英会話	写真をきっかけに英語を声に出して使い、英語を楽しみと感じることを目的とする授業。中学英語レベルから地道に学ぶ。	1 or 2 前後	120	6	○			○				○	
42			○	メディア論	この授業では、メディアの本質や社会への影響を学ぶ。新聞やSNSなどを通して、ファッションや政治などを分析し、メディア視点での観察力と表現力を養う。	1 or 2 前後	120	6	○			○				○	

43			○	美術造形論	現代芸術や写真表現を鑑賞・分析し、自身の制作に結びつけて考える力を育む。体験や文章表現を通じて表現の幅を広げる。	1 or 2 前後	120	6	○			○			○				
44			○	社会学	日常に潜む「社会的なもの」を理解する力を養う授業。前半は社会学の理論を学び、後半はフィールドワークや制作を通して多様な価値観や生き方を内側から考察する。	1 or 2 前後	120	6	○			○			○				
45	○			特 別 ワ ー ク シ ョ ッ プ	時代を象徴する国内外の写真家、業界で注目されているプロカメラマン、新進気鋭のフォトグラファーなどを招き、講演や出席者の作品講評、ワークショップなどを通じ、学生自身の創作意欲を高めます。	12 前後	120	6	○			○	○		○				
46	○			ス タ ー テ ィ ン グ ワ ー ク シ ョ ッ プ	写真の世界を「知る」「体験する」ためワークショップ。色々な写真から自分自身の将来の方向性を考えます。	1 前	60	3			○	○	○	○	○				
47	○			海外研修	学校指定の研修各国から1カ国を選択します。単に海外へ行く旅行ではなく、現地の人々や異文化と撮影取材で直接触れることで国際的な視野を磨くことができる研修合宿です。	2 前	60	3			○	○			○	○			
48	○			国内合宿	地方自治体や地域団体と連携した合宿で、地域の魅力を撮影し現地で展示まで行う中で、写真の社会的役割を体験し、発信力や伝える力を実践的に養う。	2 前	60	3			○	○			○	○			
49	○			卒業作品集	作品のセレクトからレイアウトまで、実際の編集作業を体験しながら作成し、1冊の作品集としてまとめる。	2 後	60	3			○	○	○			○			
50	○			卒業作品展	在学中に制作した作品制作の成果を学外において発表する。公の場において作品を公開し、展示方法、設営などの経験を通じて作品のプレゼンテーションについての見識を深める。	2 後	60	3			○	○			○	○			
51	○			進 級 ・ 就 職 ガ イ ダ ン ス	卒業後を見据えて1年次から実施する。業界の将来性や動向を含めて就職環境を学び、目標とする企業の内定を目指す。	12 前後	120	6	○			○	○			○			
52	○			1 年 次 春 期 合 宿	屋外撮影実習などを通して、基本的な撮影技術の確認と、コミュニケーション能力の向上を目的とした合宿です。	1 前	60	3			○	○			○	○			
53	○			NPIポートフォ リ オ コ ン ペ ティ シ ョ ン	ポートフォリオの自主制作からを通してポートフォリオの構成や表現方法を学び、客観的な評価を受けることで自分の作品に対する理解力を深めます。最終的にコンペティションとなります。	12 後	120	6			○	○	○			○			
合計						科目	6,360 単位（単位時間）												

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 本校所定の課程を試験等による評価の上、修了したと認める者には、卒業証書を授与する		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必修授業 (留意事項)		1 学期の授業期間	20 週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(画像専門課程 写真科3年制フォトアート専攻)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			写 真 表 現 演 習 Ⅰ	カメラを使い感性を映像化する基礎を学ぶ授業。撮影の目的や意図を明確にし、多様な写真表現の技法を実習で体得する。たくさん撮り、たくさん観て、表現力を磨いていく。	1 前後	120	6		○		○	○	○		
2	○			写 真 表 現 演 習 Ⅱ	年間5つの課題に取り組みながら、自らのクリエイティビティを高める作品制作を行う授業。表現方法はディスカッションを通じて決め、実習で多様な技法を学び、技術と知識を活かしてポートフォリオを制作する。	1 前後	120	6		○		○	○	○		
3	○			写 真 表 現 演 習 Ⅲ	写真誕生前の記録手段や写真の発見・技術発展の歴史を学んだうえで、写真が大量に消費される現代において改めて写真術とは何かを考え、後半は作品制作を通して探求する。	2 前後	120	6		○		○	○		○	
4	○			写真撮影基礎演習／ファインプリントⅠ	講義と実技を通じて撮影からデジタルプリントまでを段階的に学び、技術と知識を習得する。最終的に表現したい写真を自力で撮れることを目指す。	1 前後	120	6		○		○	○		○	
5	○			画像処理Ⅰ	Photoshopを使い、RAW現像・レタッチ・プリントの基本を学ぶ。自らの撮影データを仕上げる過程で、画像処理の基礎知識と技術を身につける。	1 前後	120	6		○		○			○	
6	○			画像処理Ⅱ	デジタル写真のレタッチ技術を幅広く学び、目的に応じた最適な手法を選べる力を養う。表現の意図を他者に伝えるためのイメージづくりを実践する。	2 前後	120	6		○		○		○		
7	○			画像処理Ⅲ	卒業後すぐに現場で活かせる技術を身につけるため、Photoshopに加え、Illustrator、InDesign、PowerPoint、動画やドローン撮影などを学び、課題制作を通して総合的にプレゼン技術を習得する。	3 前後	120	6		○		○		○		○
8	○			スタジオ演習	光と影の特性を理解しコントロールすることで、思い通りの写真表現を目指す。スタジオ内で光源の大きさや方向による写り方の変化を学ぶ。	1 前後	120	6		○		○		○		
9	○			現代写真論	写真を「撮る」ために、「見る」「撮られる」視点を養う。現代写真の多様な表現を知り、資料映像の鑑賞やテキストを通じて理解を深める。	1 前後	120	6	○			○		○		
10	○			近 現 代 アー ト 史	写真発明以降の美術の動向を通して、作品制作に活かせる多角的な視点を養う。展覧会の鑑賞とレポートを中心に学び、文脈理解と自分の考察力を深める。	2 前後	120	6	○			○		○		
11	○			フ ォ ト プ レ ゼ ン テー シ ョ ン 演 習 Ⅰ	写真展示の基礎を学び、編集や額装、パネル張りなどを実習で体得する。多くの展示会を見学し、印刷や展示方法の違いによる印象の変化を理解し、効果的なプレゼンテーション力を身につけることを目指す。	1 前後	120	6		○		○	○		○	
12	○			フ ォ ト プ レ ゼ ン テー シ ョ ン 演 習 Ⅱ	自身の写真表現が社会とどう関わるかを考え、発表の場を得る力を育てる。作品の言語化やプレゼン、国内外公募展への応募も行う。	3 前後	120	6		○		○	○		○	

13	○		フォトアート基礎ゼミナール	写真作家としての表現力を高めるため、様式研究による短期課題と新聞記事をもとにした中期課題に取り組み、社会との接点を見出す力を養う。	2 前後	120	6		○		○			○	
14	○		フォトアートゼミナール	写真や美術の歴史や技術を学びつつ、展覧会や出版を目指して写真によるコミュニケーションの可能性を探る実践型授業。対話と発表を重視。	3 前後	120	6		○		○			○	
15	○		作品制作演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	学校で学んだ技術や表現力をもとに、作品制作・ポートフォリオ制作を行う。成果物の制作を通じ、クオリティを上げるために必要なことや、他者へプレゼンテーションを行うスキルを身に着ける。	123 前後	360	18		○		○			○	
16	○		写真読解Ⅰ	様々な写真を記号として捉え、それらがどのような意図いや意味を持って作られたのか、読み解く手法を学ぶ。ひいては自身の写真も読み解き、制作や自己理解の手助けとする。	3 前後	120	6		○		○	○			○
17	○		メディア表現演習Ⅰ	映像やCGを含む最先端のメディア表現について学ぶ。ⅠではWebの基本構造を学び、自分だけのWebサイトを制作・公開できる力を養う。後期には資格試験レベルの練習問題にも取り組み、実践的なスキルを高める。	2 前後	120	6		○		○	○			○
18	○		メディア表現演習Ⅱ	映像やCGを含む最先端のメディア表現について学ぶ。Ⅱでは実践的な映像表現などについて学び、自身の制作や表現の選択の幅を広げる。	2 前後	120	6		○		○	○			○
19	○		メディア表現演習Ⅲ	映像やCGを含む最先端のメディア表現について学ぶ。Ⅲでは学生が写真表現と展示企画の両視点を身につけ、現代写真の多様性を理解しながら、共創的なキュレーション力と企画意図の発信力を養うことを目指す。	3 前後	120	6		○		○	○	○		
20	○		スタジオライティング	スタジオ機材の使い方やライティング技術を実習で学び、プロとして必要な撮影スキルを習得することを目的とする実技中心の授業。	2 前後	120	6		○		○				○
21	○		ファインアート演習Ⅰ	この授業では、作者自身が薬品を調合して印画紙を作る古典技法を通じて、作品に合った自由なプリント表現を身につけることを目指す。	2 前後	120	6		○		○				○
22	○		ファインアート演習Ⅱ	これまでの技術を活かして課題制作に取り組み、コンセプト構築力や客観的な分析力を高める。展覧会を視野に作品の関係性や展示構成力も養う。	3 前後	120	6		○		○	○			○
23	○		メディア論	近現代美術の多様な表現と社会背景を理解する力を養うため、重要テキストと作品を分析し、美術と視覚文化の読解力を高める講義を行う。	2 前後	120	6		○		○				○
24	○		異文化交流演習（留学生）	日本の生活習慣や文化、ビジネスマナーを学びつつ、写真家との対話や発表を通じて異文化理解と協調性を深めることを目指す。	1 前後	120	6		○		○				○
25	○		フォローアップ講座	卒業制作展や就職・デビューに向けた準備を行いながら、展示方法や作品の見せ方、仕事現場の理解を深め、将来を考える力を養う。	3 前後	120	6		○		○			○	○
26		○	フォトクリエイティブ演習Ⅰ	写真制作を通じてクリエイティビティを高め、年間4課題に取り組みポートフォリオを制作する。表現方法は議論を重ねながら決定し、実習で技術も磨く。	1 or 2 前後	120	6		○		○			○	
27		○	フォトアート演習	答えをすぐ得られる時代だからこそ、「考える力」を育てることが重要。テーマを持ち、継続的に思考を深める力を写真と共に養う授業。	1 or 2 前後	120	6		○		○			○	

28			○	写真創作演習Ⅱ	この授業では「なぜ写真を学ぶのか」を繰り返し問い直し、自分や他者の意見を交わしながら、写真への姿勢と向き合い方を学ぶことを目的とする。完成度より姿勢を重視する。	1 or 2 前後	120	6		○		○			○	
29			○	ビジュアルデザイン	印刷表現を通じてビジュアルデザインの基礎を学ぶ授業。前期はIllustratorとInDesignの操作や書体・色彩・編集の考え方を学び、後期は自由な表現と意見交換を行う。課題制作には授業外の撮影も必要。	1 or 2 前後	120	6		○		○			○	
30			○	マガジンメイキング	紙媒体の雑誌制作を通して、写真と印刷物の関係や編集の基礎を学ぶ。前期は個人制作、後期はグループで雑誌を企画・完成させる。	1 or 2 前後	120	6		○		○			○	
31			○	文章表現演習Ⅰ	この授業では、写真と言葉の関係を考察し、言葉が写真の伝達力を高めることを学ぶ。テーマごとの演習を通じ、自分の視点から考え、自分の言葉で何を伝えるかを重視する。	1 or 2 前後	120	6		○		○			○	
32			○	風景写真演習	自然や環境を相手に撮影するジャンルでは、状況に応じた判断力が必要となる。天候や光を読み、構図や遠近感を工夫して独自の視点を表現する力を養う。機材メーカーとの交流も行う。	1 or 2 前後	120	6		○		○	○		○	
33		○		ムービー制作演習	写真家にも動画感覚が求められる時代に、スチルとムービーの違いを理解し、3種の異なる動画コンテンツを制作することで映像表現の基礎を学ぶ。	1 or 2 前後	120	6		○		○			○	
34			○	デジタル表現演習	デジタルとアナログを往復しながら、撮影・編集・発表まで一人で完結できる力を養う。ZINE制作やSNS発信を通して表現力と実践力を高める。	1 or 2 前後	120	6		○		○			○	
35			○	ダークルーム	モノクロフィルムを用いて撮影・現像・プリントの技術を学び、暗室実習を通じて写真表現の基礎と伝え方を身につける授業。課題制作も行う。	1 or 2 前後	120	6		○		○			○	
36			○	ルポルタージュ演習	ルポルタージュ制作を通して取材・撮影・文章表現の基礎を学ぶ。関心や問題意識の発見、企画、現場取材、編集、発表までを実践し、メディア掲載も目指す。	1 or 2 前後	120	6		○		○	○		○	
37			○	写真史	写真の歴史を通じて、人々の感覚や表現の変化を学び、自分の写真表現に活かすことを目指す。暗記ではなく、好きな写真を見つけ語れる力を育てる授業。	1 or 2 前後	120	6	○			○			○	
38			○	写真科学	写真の理論と技術を学ぶ講義と実習を通して、光や感光体など画像形成の原理や機材の基礎を理解し、テストチャートを用いた撮影技術と画像品質の向上を目指す。	1 or 2 前後	120	6	○			○			○	
39			○	編集出版論	写真集を含む印刷物を通じて、写真の伝える力や編集の考え方を学ぶ。後期には実習としてZINE制作や作品編集を行い、自作に活かす。	1 or 2 前後	120	6	○			○			○	
40			○	ドキュメンタリー写真論	写真家に必要な表現力を養うため、1950年代以降のドキュメンタリー写真を中心に写真集を年代・地域・テーマ別に学び、感想文で理解を深める。	1 or 2 前後	120	6	○			○		○		
41			○	英会話	写真をきっかけに英語を声に出して使い、英語を楽しみと感じることを目的とする授業。中学英語レベルから地道に学ぶ。	1 or 2 前後	120	6	○			○			○	

42			○	美術造形論	現代芸術や写真表現を鑑賞・分析し、自身の制作に結びつけて考える力を育む。体験や文章表現を通じて表現の幅を広げる。	1 or 2 前後	120	6	○			○			○				
43			○	社会学	日常に潜む「社会的なもの」を理解する力を養う授業。前半は社会学の理論を学び、後半はフィールドワークや制作を通して多様な価値観や生き方を内側から考察する。	1 or 2 前後	120	6	○			○						○	
44	○			特 別 ワ ー ク シ ョ ッ プ	時代を象徴する国内外の写真家、業界で注目されているプロカメラマン、新進気鋭のフォトグラファーなどを招き、講演や出席者の作品講評、ワークショップなどを通じ、学生自身の創作意欲を高めます。	12 前後	120	6	○			○	○		○				
45	○			ス タ ー テ ィ ン グ ワ ー ク シ ョ ッ プ	写真の世界を「知る」「体験する」ためワークショップ。色々な写真から自分自身の将来の方向性を考えます。	1 前	60	3		○	○	○	○	○					
46	○			海外研修	学校指定の研修各国から1カ国を選択します。単に海外へ行く旅行ではなく、現地の人々や異文化と撮影取材で直接触れることで国際的な視野を磨くことができる研修合宿です。	2 前	60	3		○	○			○	○				
47	○			国内合宿	地方自治体や地域団体と連携した合宿で、地域の魅力を撮影し現地で展示まで行う中で、写真の社会的役割を体験し、発信力や伝える力を実践的に養う。	2 前	60	3		○	○			○	○				
48	○			卒業作品集	作品のセレクトからレイアウトまで、実際の編集作業を体験しながら作成し、1冊の作品集としてまとめる。	2 後	60	3		○	○	○			○				
49	○			卒業作品展	在学中に制作した作品制作の成果を学外において発表する。公の場において作品を公開し、展示方法、設営などの経験を通じて作品のプレゼンテーションについての見識を深める。	2 後	60	3		○	○			○	○				
50	○			進 級 ・ 就 職 ガ イ ダ ン ス	卒業後を見据えて1年次から実施する。業界の将来性や動向を含めて就職環境を学び、目標とする企業の内定を目指す。	12 前後	120	6	○			○	○			○			
51	○			1 年 次 春 期 合 宿	屋外撮影実習などを通して、基本的な撮影技術の確認と、コミュニケーション能力の向上を目的とした合宿です。	1 前	60	3		○	○			○	○				
52	○			NPIポートフォ リ オ コ ン ペ ティ シ ョ ン	ポートフォリオの自主制作からを通してポートフォリオの構成や表現方法を学び、客観的な評価を受けることで自分の作品に対する理解力を深めます。最終的にコンペティションとなります。	12 後	120	6		○	○	○			○				
合計					科目		6, 120		単位（単位時間）										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 本校所定の課程を試験等による評価の上、修了したと認める者には、卒業証書を授与する		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 必修授業 (留意事項)		1 学期の授業期間	20 週

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。